

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年12月16日

事業所名 放課後等デイサービスけやきの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1	基準以上を確保している。余裕あり。	
	2	職員の配置数は適切である	7	1	通常5~8名のスタッフ配置。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	2	現在の利用者に関しては適切。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	3		月初めの職員会議で業務改善を図っていききたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	2	毎年行っている。面談時に、保護者からの意向を聞く機会をもうけ、対応している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	3	ホームページにて公開 houkago-keyaki.com	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	4	現在は児童発達支援管理責任者のみ。	すべての職員に告知していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	3	児童発達支援管理責任者が行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	3		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	4		人気のあるプログラムに集中しがち。まんべんなく行いたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	3	休日利用は長時間であることを踏まえた支援を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	2	集団活動については、子どもの状況に合わせて行っているが、無理強いはしない。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	6	出勤時間、送迎時間があるので、全職員が毎日難しい。管理者より、個々に伝達している。	できる範囲で行っていききたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	5	送迎時間があるので退勤時間が違う。、個々に管理者に伝え、管理者から、全体に伝達。	できる範囲で行っていききたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	3		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	2	6か月以内に保護者へフィードバック、現状を聞き、伝え、計画の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	2			

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2	児童発達支援管理責任者が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	2	学校と必要な場面では、連絡をし、連携を取っている。基本は保護者を通してしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2		現在は無い。必要があれば、連携を取っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	3		必要があれば、情報を共有していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	2	現在まで、対象者はいない。	必要があれば、情報を提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	4	公園等で、地域の児童と遊ぶことがあります。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	3	児童発達支援管理者責任者が参加	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	2		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	3	児童の環境整備や、児童の肯定的な働きかけを伝えている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	3	変更時も、説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	3	随時相談を受け付けています。解決できない場合は適切な相談窓口を紹介している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	3	必要の声が上がれば、考えたい。今はけやきの森を通して伝達している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1	苦情に関しては、事業所内担当者や、市、府の窓口を重要事項説明書に記載している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	毎月初めに会報を作成している。	
	35	個人情報に十分注意している	9	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	5		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	3		策定しているが周知できていない。今後、行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	3	スタッフのみの訓練となっている。	児童も含め行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	3		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	3		現在対象の児童いないが、必要有る無しにかかわらず、スタッフ全員で理解を共有したい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2		現在対象の児童はいないが、対応可能。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	3	作成している。	新しいスタッフにも共有していく。